「かっぱ、なかった」

じぃじとのお出かけから帰ってきて、開口一番、大粒の汗を流しながら言ってくる。

今日は一日中晴れだったはずなのに、局地的に雨でも降ったかな。

「折り畳み傘でも持って行けばよかったね」

手洗いをするように促しながら、頭をぽんぽんしてみる。

どうやら濡れた様子はないようだけれど、父を見ると、なぜか笑っている。

「きゅうり2こもつけたけど、つれなかったー」

そっちか。

そういえば、今日は渓谷に遊びに行くって言ってたっけ。

私も、昔、よくお話をしてもらってたな。

「こんどは、てんぐをみつけるんだー」

しっかり次の約束もとりつけて、天狗の好きそうなものを探し始める。

「天狗は何が好きだろうね」

現実と昔噺（むかしばなし）の世界、たまには大人も旅をしてみるのもいいかもしれない。

「父さん、あの本どこにしまったっけ」

「むかしむかし」
「むかしむかしの話だけど」

高萩の70年の「あゆみ」の中に、今日まで語り継がれ、残されてきた数多くの昔話や伝説があります。

親から子へ、子から孫へと、脈々と語られてきた民話。

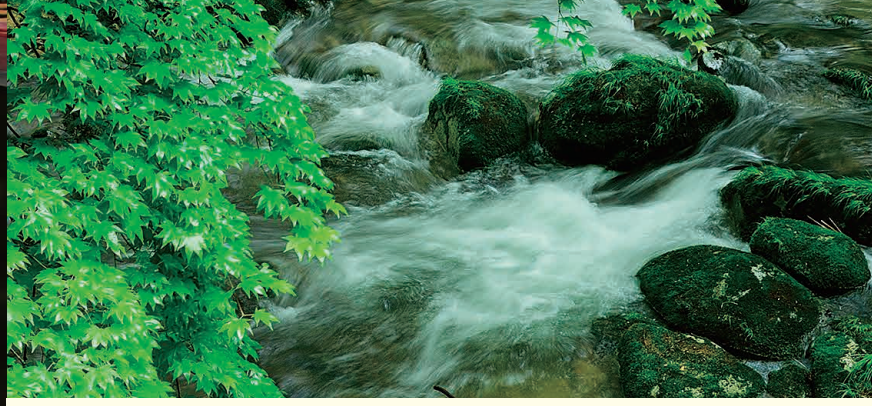
昭和55年、市民が伝えてきた昔話・伝説を一冊にまとめた「高萩の昔話と伝説」が発行されました。

多くの市民に協力いただき、3年もの年月をかけて集められた民話の中から、410話が収録されています。

山奥の農家、炉端の自然の語らいの中、お年寄りの記憶に残っていた貴重な話が、ありのままの表現で記録されています。

そこに流れる先人の気持ちをくみとり、未来の高萩の心の糧とするとともに、郷土の生活文化の貴重な結晶として、後世に伝えていきたいと思います。

市制70周年の節目となる今年、民話の声をあらためて、現代によみがえらせてみませんか。



高萩の伝説地図

ここが面白い!! 民話の楽しみ方

01 覚え語りがつながる奇跡

文章と違い、人から人へと語り継がれてきた民話は、ともすれば埋没し、失われた文化遺産というべき貴重なもの。過去から未来へつながる、ロマンを感じます。

02 感じる高萩らしさ

高萩らしい方言、なまりの持つ味わいが、ありのまま伝え残されています。

方言交じりの語りは、親しみが増し、郷土愛を育むことにつながります。

03 かき立てる想像力

高萩に伝わる民話では、地域の呼び名や風習・物が当時のまま残っているものがあります。

天狗を探しに、土岳に登ってみるのも楽しいかもしれません。

04 変化する楽しみ 創る楽しみ

語り部により、さまざまに脚色されて伝わる民話。

次は、あなたが語り伝えてみませんか。